

2021年度第2回町田市交通安全行動計画策定及び推進委員会議事録

2021年10月7日（木）

10時00分～11時00分

於：市庁舎3階会議室3-1

公開：傍聴人 なし

出席者（敬称略）

○委員： 清水、松本、増田、中原、田中、吉野、鈴木、仲村、甲斐、原、佐野、諸田

○事務局：山岡、高橋、青柳、松井

○オブザーバー：深澤

会議次第

1 議題

（1） 「（仮称）第3次町田市交通安全行動計画」の素案について

（2） その他

1 議題

- (1) 「(仮称) 第3次町田市交通安全行動計画」の素案について
事務局から説明(資料)

【質問・意見】

<委員長>

ただいまの説明において、まずは警察と交通安全協会以外の委員の皆さまからご意見を頂戴したい。

<委員>

東京都南多摩東部建設事務所では、道路と河川の管理を行っている。今回の町田市の計画素案を確認し、計画的に交差点の改良等を行い、道路の安全性の確保を行っていく。また、本計画に沿って、道路の管理を行う。

<委員>

町田商工会議所には町田市内の4,000を超える事業者が会員になっている。事業者向けに、基本方針である「事故に遭わない人づくり」に関する広報等に全面的に協力する。

<委員>

年齢を重ねてからは、マニュアル車に乗るようにした方が良い。クラッチがついていれば、アクセルとブレーキの踏み間違いをする前に車は止まるため、交通事故が減少するのではないかと。また、自転車については、町内会・自治会でもキャンペーンを行っていきたい。

渋滞についても意見を述べたい。信号待ちの際に、前の車と間隔を広く取り過ぎ、停車できる車両数が限られることから、渋滞となることもある。また、高速道路の追い越し車線を、著しく遅いスピードで走行しないことも重要である。

<委員>

ソフト面とハード面を細かく調査して、新しい計画が策定されている。基本方針1基本施策2「交通安全学習の充実」についてだが、ヒヤリハットをどういう時に経験したか、ということ洗い出すと、交通事故の原因が見えてくると考える。また、ヒヤリハット事例を周知徹底することが重要である。

<委員>

基本方針1「事故を起こさない・事故に遭わない人づくり」についてだが、教育や発信に関しては学校を有効活用したいが、重要なのは、学習や発信の内容だと思う。歩行者は道路交通法上、最優先されることと思うが、実際は交通状況によって誰が優先されるかわ変わる。そのため、誰を最優先するかではなく、安全をどのように確保するのかを考えることが重要である。歩行者は交通事故で損害を受けやすい立場だが、歩行者も自分の身は自分で守らなければなら

ない。こうしたことを検討して、教育及び情報発信をすればよいと考える。

<委員>

ヒヤリハット事例の話をするのは非常に重要である。子どもたちは何が危ないのかが分かりづらいと思うが、同年代でヒヤリハット事例を共有することで、危ないことを認識できると考える。保護者として、生徒会と話し合う機会などを活用し、交通安全について考える機会を設けることができるか、学校とよく相談していきたい。

<委員>

毎年、町田市と町田警察署とともに小学校自転車教室にて自転車の点検をしていたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、自転車の点検を実施できていない。実際に児童の自転車を点検すると、ブレーキが効かない自転車がある等、自転車の整備ができていないものが多い。自転車の整備は1年に1回行うようにしてもらいたい。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、また、小学校自転車教室での自転車点検を実施していきたい。

<事務局>

貴重なご意見ありがとうございます。これから、施策を進めるにあたって、非常に参考になるご意見だった。特に、ヒヤリハット事例についてのご意見が多く、ヒヤリハット事例の情報発信方法や、交通安全学習方法については、本計画の取組を展開していく中で検討していきたい。また、歩行者の話があったが、交通事故で歩行者の過失割合が高いものも増えていると聞いている。今後、本計画の中で、歩行者への取組として、歩行者は被害者にも加害者にも成り得ることをお伝えする予定である。

<委員長>

続いて、警察と交通安全協会の委員の皆さまからご意見を頂戴したい。

<委員>

本計画は、良い方向性で策定されている。目標値は2019年度比の10%減で770件としている。2020年は666件という数値があるが、2020年は特異な年なので、参考値にならない。2021年10月時点でも、2020年に比べて交通事故件数は増加している。そのため、2019年を基準にして目標値を設定することは妥当であると考え。また、引き続き、対策を練っていくことが目標値の達成に繋がると考える。

<委員>

本計画の内容は非常にバランスよくできている。基本方針1基本施策1「情報発信の強化」について意見を述べる。警察からも子どもの交通事故の情報を出したいが、情報を出すことが拒まれることもある。交通事故を防ぐために、具体的な場所や時間を特定できないような形で、できる限り情報発信等を行っていきたいので、ご理解とご協力を賜りたい。

基本方針1 基本施策2 「交通安全学習の充実」についてだが、子どもの事故は、小学生や中学生が関係するものが多い。子どもの交通事故防止のために、保護者への交通安全教育が重要である。小学校や中学校では交通安全教室を実施している。そういった場に、保護者が参加していただければと考える。

<委員>

交通事故の状況を考えたい。例えば歩行者は信号無視や横断禁止場所の横断が多いように感じる。こうした交通事故は、自宅から半径 500m以内で発生しており、自宅付近の道路への慣れから、「自分は交通事故に遭わない」と考え、信号無視や横断禁止場所の横断に繋がっていると考える。また、自転車については、ルール無視をして自分中心の運転になりやすい。自分中心になると、「だろう運転」になってしまい。「かもしれない運転」ができなくなる。「かもしれない運転」が大切であると考えたい。

本計画素案 p.27 の道路交通環境の問題についても考えたい。道路の整備はすぐに着手できないが、道路の維持・管理安全を確保する点検の実施はすぐにできることだと思う。交通安全協会は警察と異なり、取締はできないが、道路整備が行われるまでの間、道路の点検などへの協力を求めたり、注意喚起したりすることはできる。また、交通事故の情報は定期的に発信することが大切である。学校の生徒会を通じた情報発信や、ホームルーム等の時間を利用して交通事故の現状を伝えることができるのではないかと考える。小学生や中学生に伝えた情報は、帰宅後、保護者に話すことが期待でき、保護者の交通安全意識の向上にも繋がると考える。このように、交通事故を起こさない意識を高められるように、情報発信する事が重要であると考えたい。交通安全協会としては、情報発信のサポートさせていただく。

<事務局>

本計画案の作成にあたり、事務局として根底においた考えと、皆さまのお考えに大きな差異は無いことが分かった。今後、本計画の施策を実施していく段階で、皆さまのご協力が必要になる。その際にご協力いただくよう、よろしくお願い致したい。「情報発信の強化」についても多くのご提案があった。実際に情報発信する際は、皆さまご協力いただきますよう、重ねてお願い致したい。

<委員長>

副委員長からもご意見を頂戴したい。

<副委員長>

2026年の交通事故件数を2019年に比べて8%減に加えて更に2%減とするために、何をするかを事前に事務局と検討していた。先日、NHKの交通安全に関するテレビ番組に出演させていただいた。その中で、交通安全の取組について提案を受ける場面があったのだが、「発明キッズ」という子どもが出演しており、町田在住の子ども達だった。このように、町田市民が交通安全に対する取組に参画しやすい環境にあることから、町田市にポテンシャルを感じた。ま

た、放送後、「日本建設アート協会」から、企画に対して協力する旨、話があった。加えて「ヤマハ発動機」からも、交通安全教育をするにあたり、町田市と連携したい旨、話があった。NHKも、単発の番組ではなく、その後のフォローアップをしたいとのことだった。今後、交通安全教室や交通安全ミーティングに繋がる話になると思う。

<委員長>

様々なご意見を頂戴し、感謝する。本計画の根本は、前期計画をベースとしている。これまでの交通事故件数の減少率が続いた場合、計画満了時である2026年には交通事故件数が2019年比8%減となる。つまり、これまでの取組を続けていくことで、達成可能な数値と予想できる。本計画では、更に2%減少させ、10%削減、770件を目標値に掲げる。なぜ「更に2%」の減少を目指すのかについて、補足をもう少し記載したほうが良いと考える。また、上乘せした2%削減の為には、新たな取組を行う必要があるが、「連携できていない人を巻き込む」、「情報の接触の機会を増やす」、「情報を受け取った人が行動に移す契機となるような情報とする」等の取組が必要となる。

本計画素案には、情報の中身をどのようなものにするかは具体的に記載していないため、実際に運用をする際の具体的な内容については、皆さまと検討していきたい。また、自分中心の人が多く、交通事故に繋がるのではないかというご意見があった。そうした人がまだ多くいると考えられるため、こうした人への対応も重要である。以前の委員会で、高齢者の方は、呼びかけをしても交通安全教室等に来る人が限られているという意見が出たこともある。また、そもそも家からあまり出ない人もいる。このような、これまで交通安全を伝えにくかった人を、交通安全意識を高めるターゲットにすることが必要である。子どもに関しては、小さい頃は危険な行為をすることもあれば、周りの友達が大人しくしていると危険行為を行わないこともある。こうした行動パターンを利用して、生徒会や小学校の総合学習の際に、情報発信や交通安全学習をしてもよいと思う。具体的にどのような取組をするかは、今後も皆さまと検討していきたい。この他、意見はないか。

<委員>

「情報発信の充実」についてだが、具体的な交通事故件数等の数値ではなく、どういう状況の交通事故なのかを伝えることが重要である。そうすることで、受け手が身近に感じるができると思う。このように情報発信の内容を工夫することが重要だと考える。

<委員長>

より具体的な情報を伝えると、受け手が行動に繋がりがやすい傾向にある。交通事故のデータだけでなく、交通事故の状況等を情報として出すことが重要であると考え。他に追加のご質問やご意見はないか。

【質問・意見】

なし

<委員長>

本日も確認いただいた計画素案に対して、今後修正を加えるが、修正については、委員長と事務局お任せいただいてもよいか。

【質問・意見】

なし

<委員長>

今後の修正については、委員長と事務局にお任せいただきたいと思う。これで全ての議題を終了する。

(2) その他

<事務局>

次回の委員会は2022年2月頃の開催を予定している。

閉 会